

マリーゴールド



■マリーゴールドのプロフィール

学名： *Tagetes*

科名：キク科

分類：一年草

原産地：中米（メキシコが中心）

■マリーゴールドの品種

●フレンチ種

花の大きさや草丈が比較的小さな品種が多いのが特徴です。花壇などでふつうにみかけるのは、こちらの種類です。

最初フランスの王様の庭園に導入されてそこから各地に広がったためにフレンチという名前が付けられたと言われています。19世紀にはすでに多くの品種が記録されており、現在も多くの園芸品種がつけられています。

●アフリカン種

花が大きく草丈が高い、比較的大柄な品種が多いのが特徴です。草丈は50cm-2mになり、鉢植えにはあまり向きません。16世紀にヨーロッパ経由、17世紀にイギリス軍がアフリカ遠征の際、現地に持ち込まれ栽培され、そこから普及したのでこの名前があります。

一緒に育てると病害虫防除の効果があると言われる「コンパニオンプランツ」として扱われるのは、フレンチ種ではなく、こちらの種類のマリーゴールドです。

■マリーゴールドの育て方

●タネまき

マリーゴールドのタネは大きめでまきやすく、発芽率もよく発芽日数も比較的小さいので、扱いやすいです。タネまきの適期は4~5月、発芽適温は15℃~20℃です。

タネまきをして、本葉が10枚ほどの苗に生長したら頂点から1-2節の位置で先端を切り落とします。そうすると脇から芽が出て来てボリュームのある形の良い姿になります。

発芽直後の苗が、ヨトウムシやネキリムシなど土の中にいる害虫の被害を受ける事があります。見つけたら退治しましょう。

●育て方のポイント

土の表面が白っぽく乾いたらたっぷりと水を与えます。気温が高くて乾燥する時期はハダニがつきやすいので、葉（とくに葉の裏側）にもたっぷりと水をかけて予防しましょう。極端な乾燥と過湿に気をつけます。

フレンチ種は夏の暑さに弱く、真夏にはいったん開花を休み、初秋以降から再び花を咲かせます。花の咲いていない茎を切って土に挿しておいても比較的簡単に根付きます。

